

天文月報 9月号付録

『特集 磁気流体アウトフロー』発刊にあたり

〈巻頭言〉

このたび、天文月報では9月号付録の形で磁気流体アウトフローに関する関連記事をまとめた特集号を刊行する運びとなりました。これは読者の皆様に、上記テーマに関する研究の魅力と現状を理解していただく好機であると、天文月報編集委員会で判断し、実現しました。この特集号の発刊は、天文月報2000年3月号に掲載された岡本 功氏の記事（宇宙ジェット—あるパラダイムの終焉—）に端を発して行われた、自発的かつ活発な論争（天文月報2000年8月号の桜井 隆氏の記事、岡本 功氏の論文「宇宙ジェット—あるパラダイムの終焉—」に反論する）が大きな引き金になっております。

これまで（そして現在も）天文月報で研究記事を紹介する際には、すでに科学的な評価を得ている内容を紹介するという立場を取っています。したがって今回のように誌上で議論が展開されることは、天文月報の立場からすると例外的なものと言わざるを得ません。しかしながら、今回お寄せいただいた記事を編集委員会で検討しました結果、磁気流体アウトフローに関する研究の発展段階の状況をリアルタイムに感じ取って頂ける良い機会であり、また議論の内容が、少しばかり技術的な側面に偏っている部分もあるものの、すべての記事を総合していただければ、個別の記事に触れるよりも、

この分野の現状に対する理解が容易であろうと判断しました。これまでこのような特定分野における論争は、欧文論文誌上や限られた研究者が集まる国際会議などで展開されることが普通で、今回のように、リアルタイムな議論が母国語で展開されることは稀な機会であると思います。このような忌憚りの無い科学的な論争の迫力に触れて頂くことも、特に若手の研究者の方には良い機会ではないかと判断しました。

以上特集号発刊までの経緯を報告させていただきました。本特集を天文月報の通常の本文中に組み込まず、『別冊』の形をとらせていただいたのは、お寄せいただいた記事の量が、通常のアストロフィジクスにおける記事の総量を大きく上回っている点と、記事の内容の専門性が通常のアストロフィジクスで取り扱っている原稿の範疇から逸脱していると判断したためです。またお寄せいただいた記事を一同にまとめることにより、今後五月雨的に論争が繰り返されることを予防したいという判断があったことも付け加えさせていただきます。

最後に巻頭言に対して、原案を送っていただきました。新田伸也氏に深く感謝いたします。

天文月報編集委員会・天文月報編集長
上野宗孝